

— スマートイルミネーション横浜 2019 —
**「スポーツ・からだ・エモーション」をテーマに
 光のアート作品 21 プログラムを象の鼻パークで展開**



スマートイルミネーション横浜実行委員会は、環境・省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな横浜夜景の創造を試みる国際アートイベント『スマートイルミネーション横浜 2019』を11月1日(金)から4日間開催します。

今年で9回目を迎える本イベントは、人々のこれからの暮らし方に意識を向けるきっかけとなる「夜の豊かな暗さ」を演出、ベテランから若手作家のアーティストを始め大学と企業による光のアート作品など全21プログラムを展開。アートプログラムのテーマを「スポーツ・からだ・エモーション」と掲げ、来場者が参加することで完成するインスタレーション作品やワークショップなど、見どころ盛りだくさんの内容で展開します。

報道関係の皆様には是非ご注目いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

<スマートイルミネーション横浜 2019 見どころと開催概要>

・「アートプログラム」

2019年のテーマは「スポーツ・からだ・エモーション」。
作家11組、大学6組(全8プログラム)、企業1社(全2プログラム)。全21のアートプログラムを展開します。

・「スマートイルミネーション・サミット 2019」

11月2日(土)13時から、海外3都市=ジャカルタ・ニューヨーク・リヨン、そして横浜の文化及びまちづくり関係者が集い意見交換の場となるサミットを象の鼻テラスにて開催します。

・「連携プログラム」

スマートイルミネーション横浜と施設・企業・団体がコラボレーションし、全8プログラムを展開します。
参加団体=アンスティチュ・フランセ横浜×Aokid、開港五都市景観まちづくり会議、ぞうさんマルシェ、ポート・ジャーニー・プロジェクト/山本アンディ彩果、横浜市建築局建築防災課、横浜税関、横浜はしけ運送事業協同組合(SUITAKU)、横浜ロータス

期 間：11月1日(金)～11月4日(月・祝) 17:30～21:30
 ＊一部プログラムは12月25日(水)まで象の鼻テラスにて展示
 会 場：象の鼻パーク、象の鼻テラスほか
 入場料：無料
 主 催：スマートイルミネーション横浜実行委員会
 共 催：横浜市
 オフィシャルパートナー：株式会社 FREEing
 協 賛：株式会社中川ケミカル
 法人サポーター：横浜はしけ運送事業協同組合
 アートプロデュース：スパイラル/株式会社ワコールアートセンター
 公式 WEB サイト <http://www.smart-illumination.jp/>



photo:Hideo Mori



＊本事業は平成31年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業に採択されています

【取材などに関するお問い合わせ先】株式会社サニーサイドアップ 担当：王静華、伊東美和、蛭川貴之
 TEL：03-6894-3200・FAX：03-5413-3050・MAIL：sij2019@ssu.co.jp

【一般のお問い合わせ先】スマートイルミネーション横浜実行委員会 事務局
 TEL：045-633-9660 (平日 10:00～18:00)・FAX：045-662-0082・MAIL：sij@ludens.be

【アートプログラム】

作家 11 組、大学 6 組(全 8 プログラム)、企業 1 社(全 2 プログラム)。プログラム数は全 21 を予定。

今年のアートプログラムのテーマは「スポーツ・からだ・エモーション」。

2019 年はラグビーワールドカップ 2019 日本大会として、決勝戦・準決勝戦・プール戦 4 試合の合計 7 試合が横浜で開催されるなど、スポーツへの注目度が高まる年。こうした機運を捉え、本イベントでは『人間の身体』に着目し身体性や運動性、人体のさまざまな営みの中からヒントを得て生み出された作品群を、象の鼻パーク・象の鼻テラスに展示します。本イベントのコンセプトである環境・省エネルギー技術の活用を図りつつ、人種や言語の壁を越え、世界の誰もが身体的に楽しむことができる光のアートフェスティバルを構成します。

▶作家 11組、11プログラム

石井結実、小野澤峻、日下淳一、サリタ・イブノ、高橋匡太、武内満、徳永宗夕、原倫太郎+原游、松本大輔+原田弥+、ミラーボラー、森田葵衣

▶大学参加 6組、8プログラム(城西国際大学は3作品出展)

城西国際大学 メディア学部クロスメディアコース、多摩美術大学 × ヒビノ株式会社、チーム・ソラ(関東学院大学 建築・環境学科 × 読売理工医療福祉専門学校 建築学科)、東京藝術大学 デザイン科・空間演出研究室、東京大学 筧康明研究室、横浜市立大学 鈴木伸治研究室

▶企業参加 1社、2プログラム(展示+ワークショップ)

株式会社中川ケミカル

<<展示作品>>



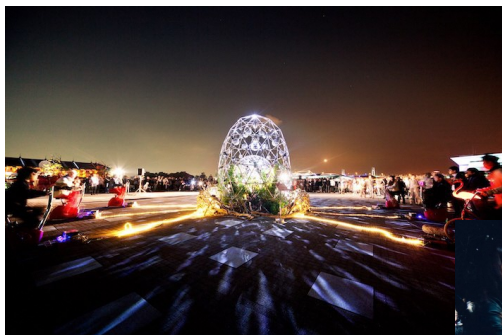
チャレンジ!!象〜ン(ゾーン)

〜子どもクリエイターと考えたスマイルコース〜

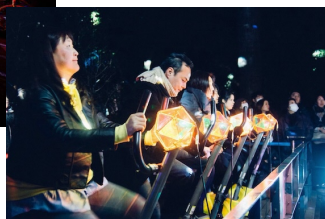
作家名: 高橋 匡太

「自分たちの遊び場を自分たちで考え作る喜びを子どもたちに感じてもらいたい」というアーティストの思いから始まった次世代に向けたアートプログラム。

2日間に渡ってワークショップ「高橋匡太さんと光のコースを作ろう」を行い、10人の子もたちが体と手を動かし巨大コースを作りました。その体験に基づき、本番のコースづくりに挑戦しました。作家と未来のクリエイターがワクワクしながら自由に発想したチャレンジコースが象の鼻パークに登場します。



©MIRRORBOWLERS Inc.

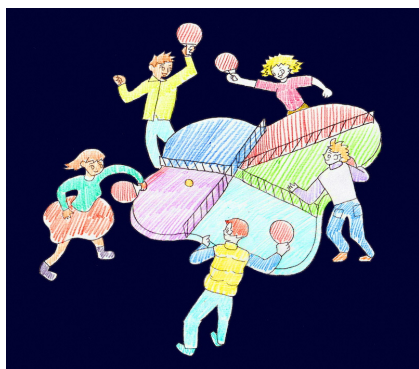


たまごプロジェクト

作家名: ミラーボラー

その場に居合わせた人々が自転車を漕ぐことで、思いの光を作り出し、光のハーモニーを奏でる「たまご」型のオブジェを照射させる参加型のインスタレーション。

言語や年齢、性別を越えて見知らぬ人同士が共に自らの運動エネルギーで作る「ヒカリ」によって輝く「たまご」は、人と人の会話のいない心のつながりを生み出します。人の喜びで作られた「たまご」はそのような友愛の世界への可能性を秘めた作品です。音楽に合わせて漕ぎ手の心の情景をヒカリで視覚化するプロジェクト「たまごオーケストラ」も開催します。



ルミナスピンポン

作家名: 原 倫太郎+原 游

ブラックライトで蛍光に輝く、オリジナルの卓球台「木琴型」と「4人でプレイできる型」の2タイプが象の鼻テラス内に展開。

木琴型は、球が当たる場所によって木琴のようにさまざまな音が鳴る仕掛けになっているため聴覚的にも楽しめます。4人でプレイできる型は、スマートイルミネーション・サミット 2019 の参加都市である、リヨン・ニューヨーク・ジャカルタ・横浜の4都市の輪郭をデザインに取り入れた、見た目もユニークな卓球台。港をイメージした得点板も設置されており、老若男女、知らない人同士でのプレイも気兼ねなく挑戦することができます。

TENUN TEDUH (トウヌン・テドゥ)

作家名：サリタ・イブノー from インドネシア



来場者は、スクラップ生地や、落下物、糸、ゴミなどを材料にして、それらを排出したそれぞれの町について語り合いながら、作家とともに「織り」を行います。

理想的で反復的な織りは、内から外へ、前へ後ろへと行き来する行為。ここでは「接続」と「構築」をキーワードに、家、あるいは安全な場所をともに作り出します。会期終了時には、織りの完了とともに、トウヌン・テドゥ/ウーブンシエルター（織り綴られたシエルター）が完成します。* 今期唯一の海外からの参加作家です

船上茶会「聖なる灯」

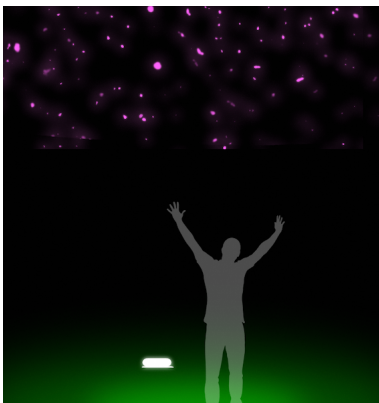
作家名：徳永 宗夕 + 日下 淳一



裏千家の茶道家・徳永宗夕と日下淳一によるコラボシリーズ。2014年から毎年継続して展開され今年も6回目。茶の湯という無駄のない美しい点前の所作は、鍛錬を積み重ねた身体的表現と言えます。古来から続く日本伝統文化の継承を伝える機会として、クルーザーのキャビンにて一服をお楽しみいただけます。古代ギリシャ時代から尊ばれる神聖な火。聖なる灯を探して、みなとみらいの夜景やアート作品を眺める、至福のひと時となりうでしょう。

ひかりおくり

作家名：武内 満



横浜の「現在」と「未来」とをつなぐ新しい光で建造物を彩ります。

明治五年（1872年）に日本で初めてガス灯が設置され、明るい夜を迎えた街である横浜。来場者が、横浜の「現在」と「未来」とをつなぎ、象の鼻パークに新しい光を作ります。

* スマートイルミネーション・アワード 2018 最優秀賞受賞

蹴鞠装置

作家名：日下 淳一



竹組と繋がった光る鞠を蹴って自由に遊ぶ装置。

「鞠を蹴り、戻ってきた鞠を蹴る」を繰り返し、その回数を競います。参加人数は5人が上限で、一人ずつ順番に蹴り続けるのがルール。また手を使う・腕に当たる・蹴り返せない・竹組の外に鞠が出る・鞠が竹組を一周する・鞠が竹組に触れる、の場合に終了となります。

ポンプ DE イルミ vol. shadows

作家名：松本 大輔 + 原田 弥 +

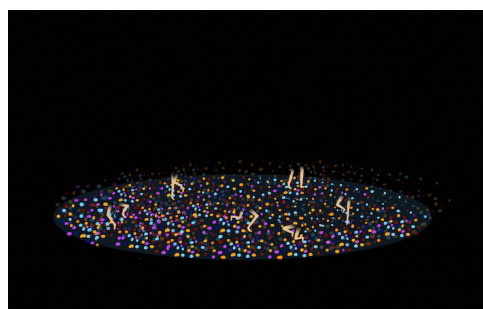


来場者の力を借りることで光り出す参加型の作品。

光をテーマに様々な人や空間、モノを繋ぎ、新たな「+(ジョイント)」を作り出します。太陽の自然エネルギーが電力となり光に変わり、来場者のエネルギーが空間を作り出し忘れられない未来の横浜夜景と笑顔を創造します。覆われたシートに映る参加者の動く影は、可視化された人の持つエネルギーです。普段では伝わりにくい、個々のエネルギーを感じ取ることが出来る作品です。

痛い + アート

作家名：石井 結実

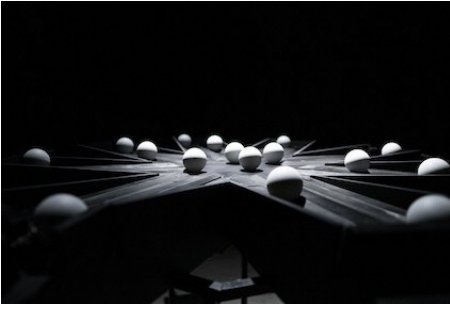


第二の心臓と言われる足の裏を刺激する健康的なアート装置。光る石に足を踏み出すと、痛みが全身を駆け巡る、体で感じるアート作品です。人が生存するために必要な痛覚が、自身の身体を再認識させます。痛い。けど気持ちいい。その矛盾した感覚が、脳を麻痺させ、もう一步、もう一步と人を動かします。勇気を出して靴を脱いで、ぜひ挑戦してみてください。

* スマートイルミネーション・アワード 2018 最優秀賞受賞

Movement act (ムーブメント・アクト)

作家名：小野澤 峻



同時にキャッチボールし行き交うボールのムーヴメントを追うことに、思わず見入ってしまう作品。

8方向から木造のレールが中心で交わる構造体。レールにはそれぞれのボールが行き交うための機能部品(ソレノイド)が取り付けられ、向かい合うソレノイド同士でキャッチボールが行われます。「誰でも夢中になれる時間」をお楽しみいただけます。

参考映像 = <https://youtu.be/9oGsOBu0hLY>

発光ジャングルジム

大学名：チーム・ソラ（関東学院大学 建築・環境学科×読売理工医療福祉専門学校 建築学科）



「空間の中に個々の居場所を作ること」を目的に制作した小さな建築物をベースとし、それに「光」という新たな要素を加えて、「発光ジャングルジム」として再生した作品です。

4m×4m×3mの立体的なフレームの中に、250mm間隔でテラスを組み込んだジャングルジムが母体となります。その中に光と身体が融合して発光体となったヴィジターが加わることで、姿が変貌。また、レベルの違うテラスからは周囲の夜景を楽しむことができます。

横浜にヒカリを

大学名：城西国際大学メディア学部クロスメディアコース



横浜の街と海の輝きと美しさを、人々の力で表現します。

横浜には、煌々と輝くヒカリがあります。そのヒカリがもたらす喜びが目に見える形で現れたら、何かを成し遂げたときの感動のように広がっていくはず。その為に必要なのは特別なチカラではなく、老若男女誰でも、簡単に、自分のチカラでも輝かすことができるものでありたい。横浜の海のシンボルである船を元に、舵輪を回すという簡単なことで、街を輝かせていく。

Blink-Blink (ブリンク・ブリンク)

作家名：森田 葵衣



見つめ合う二人の時間を音にする装置です。互いのまばたきを手元のキーで数え、音を鳴らします。

セーフのライン、アウトのライン、ある一定のルールが敷かれたコートの上、境界線をまたぐ白い箱。その箱を覗くと、境界線の向こうにいる相手の目元が見える。こちらを見つめ、時折逸らし、また見つめては、まばたきをする。あなたと私が同じように生きていく、ということを確認め合う1分間です。

緑 (ユカリ)

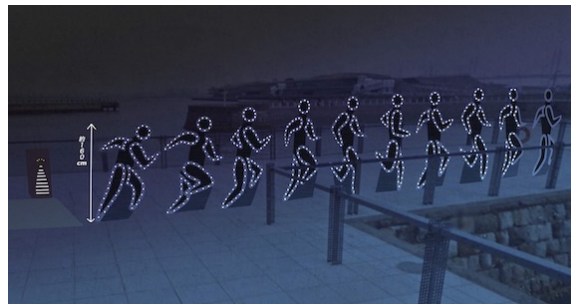
大学名：城西国際大学メディア学部クロスメディアコース



私たちは日常的に何かと繋がることで成り立っています。それは、人同士だけでなく、自然や社会・空間といった目に見えるものから見えぬものまで様々です。しかし、私たちは普段「繋がり」を意識して生活することは多くはないのです。本作品『縁』は、都市の光で自然を再現した花に触れる事が花の色の変化に繋がり、「横浜に住む人々と自然」・「横浜の都市と自然」を表しています。一見相反した横浜の都市と自然の繋がりを、ぜひ体験してみてください。

オリンピックト

大学名：城西国際大学メディア学部クロスメディアコース

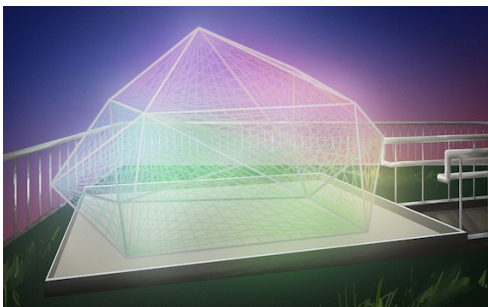


スポーツピクトグラムの運動性に着目した作品です。

日本だけでなく世界にも発信できるような作品を目指し、2020年に開催されるオリンピックに視野を向け、世界共通のコミュニケーションツールであるピクトグラムに注目しました。スポーツピクトグラムにさらに動きを加え、競技性を持たせることで、来場者へ体を動かす楽しさやスポーツの魅力を感じていただきたい作品です。

シルクローム

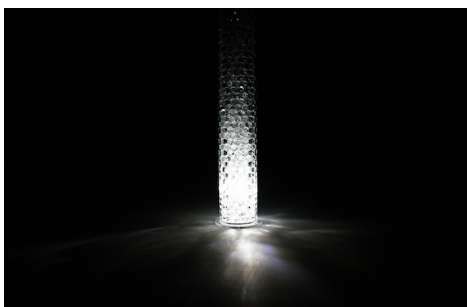
大学名：多摩美術大学 × ヒビノ株式会社



繭が出来上がっていくような、流れのある光を発します。かつて日本が開国した明治時代に生糸貿易で鐘水と横浜との間を通っていた「絹の道」から着想を得て、絹・繭・蚕をイメージした作品です。strip（棒状のLED証明）を立体的に組みあわせ、フレームに糸を張り、stripの放射によって光る仕掛けです。

Waves

大学名：東京大学 寛康明研究室



光源とそれに照らされる物体の変化によって、動的な光のパターンを生み出す作品。

インスタレーションでは、内部が小さな透明球状素材で埋まった円筒が間隔を置いて並べられます。円筒側面では、光源が位置や強さを変えながら内部を照らし、光の「波」をつくるパスポーツを表現。内部では、水の注入と排出が繰り返され、液面の「波」が円筒の透過率を変化させます。日光と波面の関係から生まれる海の美しさを眺めるように、本作品では光と水の「波」の関係性の上にも生まれる、計算的で偶発的な現象が鑑賞いただけます。

光のらくがき

企業名：株式会社中川ケミカル

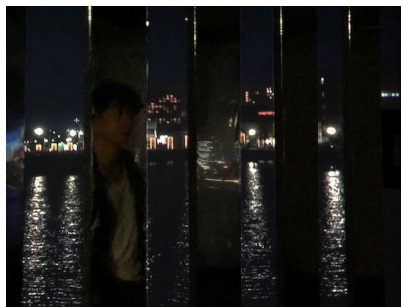


今年で7年連続開催！中川ケミカルが展開する毎年大好評の、蓄光シートのパネルにペンライトを使って自由にお絵かきができる装置です。

おしゃべりをしながら、時には居合わせたお隣さんと世代を超えて交流しながらも、無邪気なラクガキをお楽しみください。

The Cityscape and an Individual

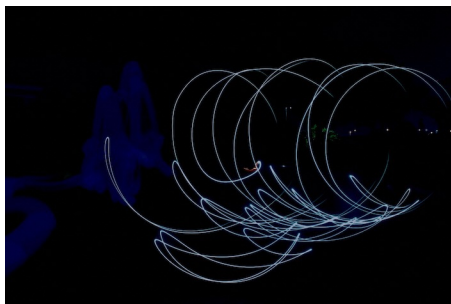
大学名：東京藝術大学デザイン科・空間デザイン演出研究室



夜景と個人で構成されるイルミネーションをお楽しみください。夜景は個の光が集まって形作る夜の景色です。それぞれの光には異なる様々なバックグラウンドが存在しています。公園を照らす街灯の光や、観覧車を演出する光、ビルの一室を灯す光。それらが調和し、一つの夜景を作り出します。様々なバックグラウンドを持つ、光の集積である横浜の夜景と世界を構成する一人である自身が重なり移ろい、新たな一つの景色として再構成されます。

Light line

大学名：横浜市立大学 鈴木伸治研究室



光の軌跡を投影するアート作品。

人の動きを光で表現することによって、「動き」を普段と違った視点で捉えることができます。様々な動きを表した光の線を見ることのできる鑑賞型と、実際に光を動かし、自分だけの夜景作ることができる参加型とを通して、作品をお楽しみいただけます。

キラリと光るリストバンドを作ろう！

企業名：株式会社中川ケミカル



暗間でも光って目立つリストバンドを身につけて外に出かけよう！

中川ケミカルが主催する、きらきらひかるリストバンドを作るワークショップです。無地のリストバンドにキラキラ光る素材や透明のシートを貼って、自分だけのオリジナル・リストバンドを作ります。

参加費：1回500円（税込）

参加方法：家の鼻テラス内で毎日随時受付、1日100個限定

※プログラムは都合により変更になる場合もあります。あらかじめご了承ください。

【取材などに関するお問い合わせ先】株式会社サニーサイドアップ 担当：王静華、伊東美和、蛭川貴之
TEL：03-6894-3200・FAX：03-5413-3050・MAIL：siy2019@ssu.co.jp

【一般のお問い合わせ先】スマートイルミネーション横浜実行委員会 事務局
TEL：045-633-9660（平日10:00~18:00）・FAX：045-662-0082・MAIL：sij@ludens.be